

キトンボ *Sympetrum croceolum croceolum* (Selys)

【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は93%、  
現存数は2であり、絶滅危惧 I  
B 類に相当する。  
県内の安定産地はほぼなくな  
った。

【形態】

翅の前縁と根元から半分程度  
が美しい黄褐色となるアカトン  
ボであり、和名はその翅の色に  
由来する。



♂. 豊田市飯野町, 1999年11月6日, 鶴殿清文 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

尾張～東三河の丘陵地を主たる分布域とし、  
27市町村で記録されている。

【国内の分布】

北海道から九州南部にかけて記録されてい  
る。

【世界の分布】

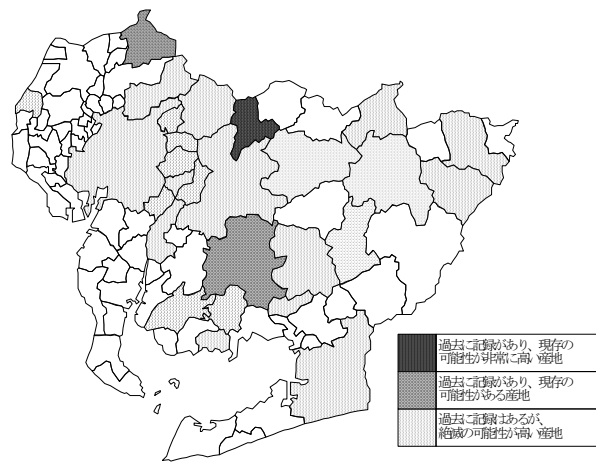
朝鮮半島、中国に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

成熟成虫は、おもに丘陵地から山地にかけ  
ての周辺を林に囲まれた池沼で見られる。未  
成熟成虫は、周辺の林などへ移動するよう  
であり、ほとんど姿を見かけない。幼虫は、水  
域の浅い岸辺で得られる。

7月頃から羽化し、10月頃に水域に戻っ  
てくる。耐寒性のある種であり、他県では時  
に年越しをする例が観察されるほどである。  
1年1化である。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

かつては尾張～三河の丘陵地から山間部にかけて、  
個体密度は高くないものの点々と分布していた  
が、現在では豊田市（旧藤岡町）などの池で少  
数が見られるに過ぎない。また岡崎市のおかざ  
き自然体験の森で、1シーズンだけ成虫が目撃  
されたが、翌年以降は確認できなかった。

生息地である池沼が改修されたり、水質悪  
化が進行したり、あるいは肉食の外来魚が放  
流されて絶滅した例が多いが、山間部の生  
息地では一見環境変化はないように思われ  
ても、本種だけが姿を消す例も散見される。  
本種のみ絶滅する要因はよくわかっていな  
い。

【保全上の留意点】

- 1) 幼虫の生息域の水質汚染防止と底質環境の保全
- 2) 成虫の休息域となる水域周辺の林地の確保
- 3) 幼虫／成虫を捕食する可能性のある外来魚の移入禁止

【特記事項】

隣県でも本県と同様、近年生息地を急激に減らしているようである。

(吉田雅澄)